

(5) 東海



東海地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

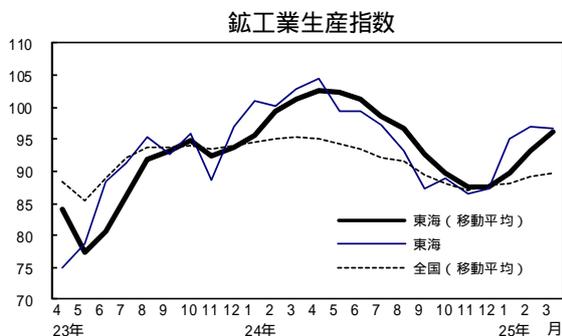
前回調査からの主要変更点

	前回(平成25年2月)	今回(平成25年5月)	
景況判断	下げ止まっている	持ち直し	
鉱工業生産	下げ止まっている	持ち直し	
個人消費	底堅く推移	持ち直し	
住宅建設	大幅に増加	増加	
雇用情勢	下げ止まっている	改善	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

1～3月期には、輸送機械は、国内向け新型車効果や北米向けが堅調に推移したこと等から増加した。一般機械は、主力の金属工作機械で、北米やアジア向けに動きがあったことから増加した。電子部品・デバイスは、スマートフォンやタブレット向けの生産が堅調だったこと等から増加した。プラスチック製品は、自動車向け製品が増加した。化学は、主力の医薬品の増加等が寄与して増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	37.5	10.1	17.5	12.0	6.5	5.4
一般機械	12.7	6.4	0.5	0.4	0.4	0.9
電子部品・デバイス	6.8	28.3	2.1	23.7	9.5	8.3
プラスチック製品	5.4	2.9	5.2	3.7	3.6	1.9
化学	5.0	1.7	7.3	4.0	7.9	8.3
鉱工業	100.0	5.4	9.9	8.8	2.1	0.5

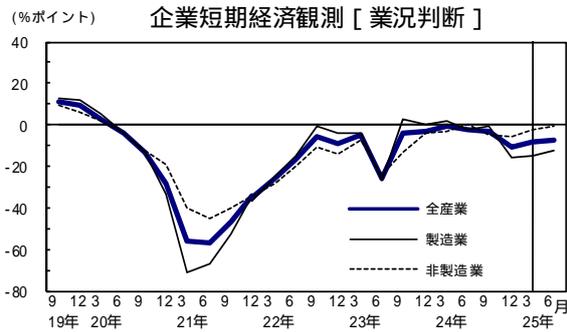
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

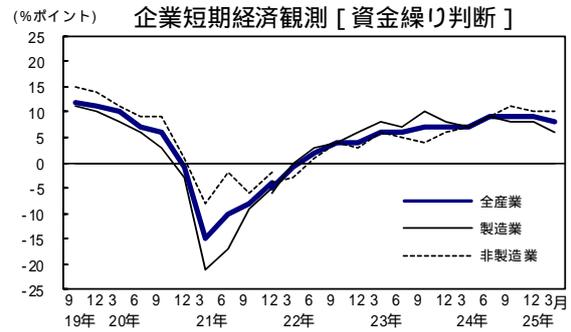
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

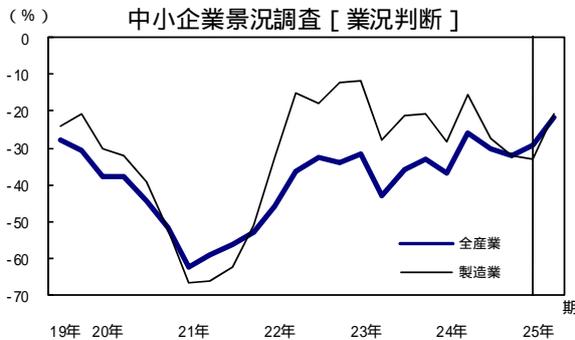
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年6月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

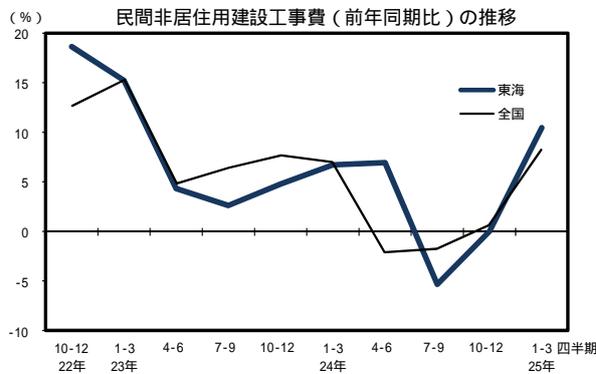


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「輸入の減少はあるものの、それを上回る輸出の引き合いが増えている。国内小売業における販売物量も増えてきている(輸送業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績見込み	25年度計画
全産業	17.2(19.0)	3.5
製造業	21.3(23.0)	0.8
非製造業	13.6(15.6)	6.0

(備考) 1.()は前回(12月)調査比修正率。

2. 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比1.5%減、2月は同2.1%増、3月は同0.1%減となった。

大型小売店販売額

百貨店は、1月は、冬物衣料やクリアランスセールが振るわなかったこと等から前年を下回った。2月は、春物衣料が振るわなかったことや売り場面積の減少等から前年を下回った。

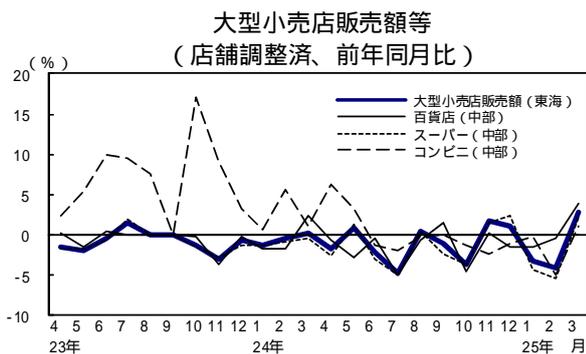
3月は、宝飾品等の高額商品や春物衣料が好調であったこと等もあって前年を上回った。

スーパーは、クリアランスセールや春物衣料が振るわなかったこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

東海地域の家計動向関連DIは、55.9となり前月より0.1ポイント上昇した。

「4月前半は歓送迎会があり、金曜は深夜まで乗客があった (タクシー運転手)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。



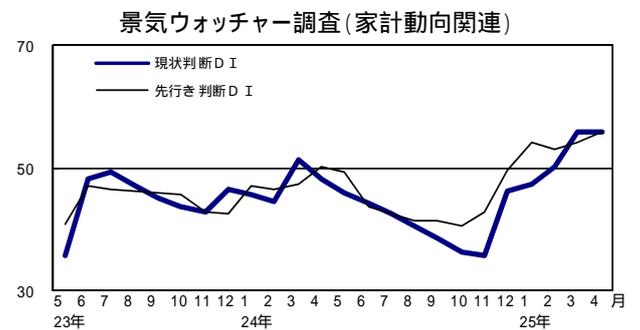
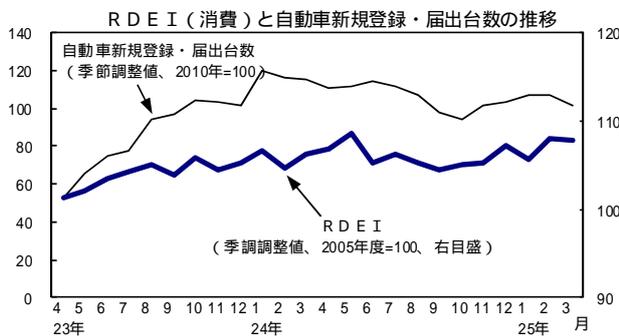
	25年1-3月	25年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.2	1.5	2.1	0.1
大型小売店 (*2)	1.6	3.2	4.1	2.8
百貨店 (*2)	0.7	1.6	0.5	4.0
スーパー (*2)	2.6	4.3	5.4	2.2
コンビニ (*2)	1.3	0.3	4.9	1.0
乗用車 (*3)	10.6	8.9	8.6	13.0
(季節調整値) (*3)	5.7	4.2	0.7	4.8

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整済、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパー、コンビニは、中部

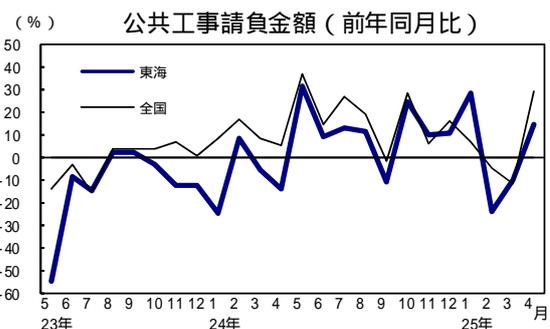
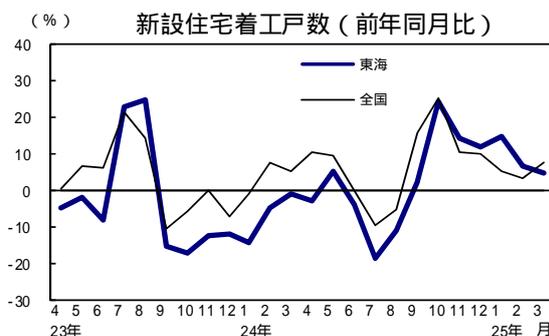
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比 (%)



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

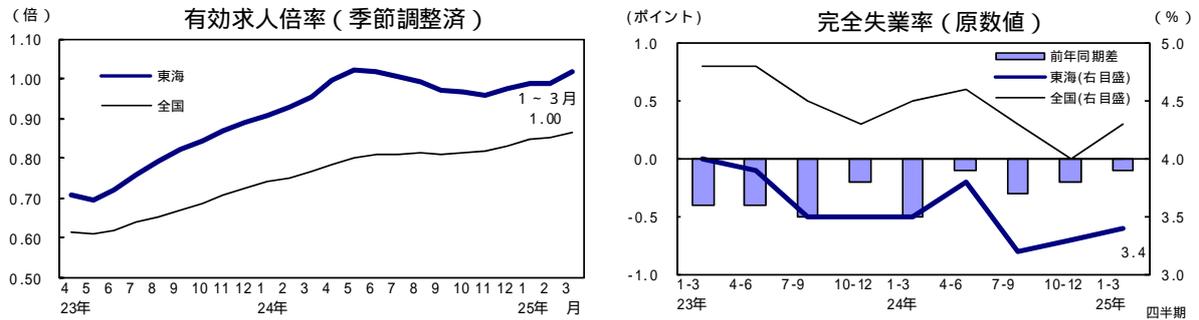


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連(現状)]

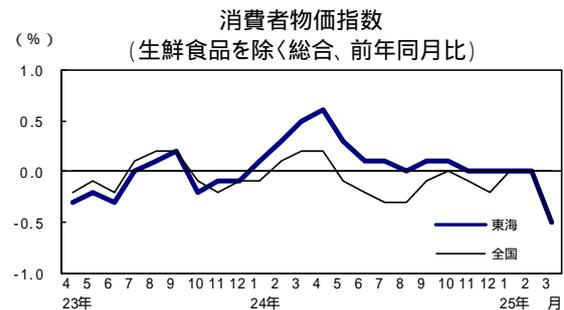
「労働者派遣法の改正に伴い、業種全般で非正規社員を正社員採用に切替える企業が増えている(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年4-6月	7-9月	10-12月	25年1-3月	25年4月
倒産件数	383	371	310	336	124
(前年比)	6.6	19.7	9.6	6.9	6.9
負債総額	805	551	541	780	229
(前年比)	28.9	5.8	46.2	14.8	47.1



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・客単価が高額品だけでなくファッションやリビング用品部門でも上がっており、客の購買意欲の高まりが数字にも表れている(百貨店)

<先行き>

・自動車メーカー及び関連企業の設備投資が増加の見込みである(一般機械器具製造業)

